



くぼたつ

久保田達也(くぼた・たつや): 冒険家、NAPU大学名誉人文学博士、ラジューマ大学教授、工学院専門学校インターネット科特別講師、日経新聞ビジネスセミナー常任講師。

くぼたつヒマラヤ探検隊 ~ 第二話 IT推進派の僕に山男の遺伝子が蘇った

エベレストトレッキングにはインマルサット(64kbps)を持参してリアルタイムでチョモランマの夜明けを日本に中継しようとも計画したが、単なる遊びに過ぎないので今回はやめにした。「なーんだ」と思うかもしれないが、ところ変わればインターネットという技術革命は凶器にもなる。インターネットは使い方次第で武器にもなるのだ。それを自由に使いこなす能力を身に付けたならば、それなりに本人の自覚をもって使う必要があるということを知らされた旅となった。

現在ネパールは山岳ゲリラとの攻防が続いており、ゲリラ自身も衛星回線によるインターネット活用にて情報網を引いているとのことだ。その反面、有効活用もある。同志社大学の山岳部もベースキャンプしており、インマルサットを持参して天気や政情情報、後方支援部隊との連絡網に活用している。山岳地域の村には衛星回線が確保しており、おもに電話として使っているようだが、コネクター部分を見る限り、通常のモデムに接続可能のようだった。実は、僕もわざわざ重いノートPCをザックに持ち歩いていたのだが、“エベレスト街道を日本に報道するのは意味があるが、日本などの刺激だらけの物質文化をネパールに紹介するのは人心を惑わす”と感じて1回もつなぐことはしなかった。自分のおごりかもしれないが、子供たちの笑顔、女性たちの微笑み、男たちの凛々しさがインターネットを介することで失われるように思えたからだ。だいたい、地球の屋根、8000メートル級のパノラマに囲まれて大自然を堪能しながら、なんでインターネットなんぞをやっている暇があるのか? と感じたのだ。その時、IT推進派だった僕がはじめて、自分にセーブをかけた。20年ぶりの登山で昔の山男遺伝子が蘇ったのもあるかもしれない。とにかく自然をこよなく愛する男になった。

カトマンズに戻って市内観光もんだからエキスポ展示会に行ってみたら物産展みたいなもので、食料から衣類とあらゆるものが300ブースほど出展されていて、来場者は地元ネパール人のみであった。その中にインターネットサービス関連は10ブースほどあり人気をかくしていた。街中にはインターネットカフェが10メートルお



きにあり、主に世界中の若者トレkkerでごった返していた。日本の文明化はマイホーム 車 テレビ インターネットの順にやって来たが、日本の1940年代そっくりと言われるカトマンズにはその物質文明が一度に入ってきている。それでも観たところによると人間の対応能力は大きく、それらをなんなく生活に取り込んでいるようだった。といっても日本人と比較してみれば、道中を歩く人々の英語はネイティブスピーカーに近いし、優秀なプログラマーも多く出ている。きっとデジタルデバイドは貧富の差をひろげながらも国の発展はとどまるところを知らずに行き着くところまで行くのだろう。

後日談:とにかく一番驚いたことは体脂肪が4日間で5パーセント減ったことだ。体脂肪を燃焼しながらエネルギーに変えるダイエットアミノ酸(一般売りしていないブランド)を服用していた効果がこれほどあるとは思わなかった。こんなことなら地道な努力よりいっそのこと日帰りの体脂肪燃焼トレッキングで減らしてしまってから後は維持していさえすればいいではないか、そう思って今度、新たなツアーを企画することにした(笑)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp